

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 234

2016/04/01

今月の一枚

今月のイベント

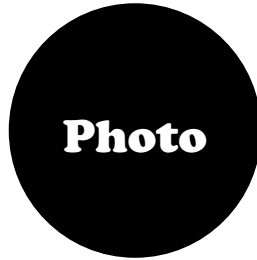
参加者募集

GREEN COLUMN

01. イトウはいるのか？
02. 学名っておもしろい！



今月の一枚



「一番かわいい生き物は？」

表紙写真・文／町田善康

現在、美幌町には、哺乳類が31種、鳥類が165種、魚類が27種など、色々な生き物が暮らしています。そのなかで、一番人気のかわいい生き物は何でしょうか？

エゾリスやユキウサギ、魚の中にもかわいい子があります。でも、やっぱり、モモンガ（写真）が一番なのかもしれません。

4月23日（土）、国際博物館の日を記念した行事で、美幌博物館にてかわいい生き物の写真をそろえます。どの生き物が一番かわいいのか、一緒にお話しましょう。

Event. 今月のイベント

企画展「家族のじかん」 ～5月29日(日)

ロビー展&イベント「お宝みせ国際博物館の日記念行事」 4月23日(土) ロビー展は5/8日まで

プチ工房「やってみよう! マーブリング」 4月14日(木), 21日(木)

モノ作り講座「仮剥製をつくろう」 4月16日(土), 17日(日)

博物館講座(芸術編)「北海道の木彫り熊」 4月30日(土)

Information. 参加者募集

イベント「お宝みせ国際博物館の日記念行事」

●4/23(土) 9:30 - 17:00 (10:00 - 12:00, 14:00 - 17:00 に担当学芸員が随時解説を行います。) ●美幌博物館 ●無料 (常設展示室も無料でご覧いただけます) ●美幌博物館学芸員 ●申込み不要

プチ工房 「やってみよう! マーブリング」

●4/14(木), 21(木) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(100円) ●福田春美(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座 「仮剥製をつくろう」

●4/16(土), 17(日) 9:30 - 16:00 ●美幌博物館 1F 修理室 ●保険代(100円), 汚れてもよい服装, ゴム手袋, 筆記用具, 昼食 ●岩見恭子氏(山階鳥類研究所) ●美幌博物館へ電話申込み(4/1 - 4/12)。対象は小学校5年生から一般, 中学生以下は保護者の同伴が必要, 定員10名で締切。

博物館講座(芸術編)「北海道の木彫り熊」

【講演会】 ●4/30(土) 10:00 - 12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●阿部吉伸氏(北海道教育大学岩見沢校) ●申込み不要。対象は中学生から一般, 小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日

4日, 11日
18日, 25日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

イトウは いるのか？

写真・文／町田善康



親父が帰ってくると、赤い大きな魚を肩に担いで来たんだ。魚をよく見ると、その頭は地面に届き、大人の身丈にせまるほどだったよ。

町内に住む方からそんな話を聞いたことがあります。かつては、美幌川にも、1mを超えるイトウが泳いでいました。しかし、昭和49年に一人の釣師が釣りあげたという話を最後に、パタリと情報が途絶え、今となってはその姿を見ることがありません。

でも、本当にイトウは美幌川から姿を消してしまったのでしょうか？昨年、環境DNAを用いたイトウの生息調査が行われました。環境DNAとは、川や海の水に混ざった生き物のDNAのことで、環境DNAを調べることで、その場所にいる生物を特定することができます。また、その場所に暮らす生き物の数についても、調べることができ、今後、活躍する新技術です。

美幌町内では、網走川で1か所と美幌川で3か所、合計4か所で調査が行われました。

今回行った調査では、残念ながらイトウを見つけることが出来ませんでした。ただ、「いる」と証明するのは簡単で、イトウそのものを見つければ良いのですが、「いない」となると「いる」可能性を全て否定しなければなりません。それを証明することは不可能に近く、もしかしたら…と思ってします。そのため、今後も、イトウがいるのか継続して調査を続けていきます。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

学名って おもしろい！

写真・文／城坂結実



春です。まだ消えぬ寒さがあり、小雪もちらつく3月とは違い、文句無しの春がやってくる4月。

グリーンレター213号（2015年12月1日発行）のコラムに、植物標本の引越しについて書きました。「約2,000点の標本たちの引越しは、春まで続きます。」と締めくくってはみたものの、未だ引越しは完了せず、2,000点の植物標本とともに、なんともスッキリしない春を迎えてしまいました。それでも、学芸協力員の方にお手伝いいただいた甲斐もあり、各標本は新しいラベルとともに収蔵棚へ収まりつつあります。

標本を整理している最中、植物の学名に目がとまりました。植物などの生きものには、みなさんがよく耳にする「エゾタンポポ」といった和名の他に、正解共通語とも言える学名がついています。学名はラテン語で表記され、と

きに植物の特徴を表す意味もついています。

例えばジンチョウゲ科 ミツマタは、*Edgeworthia chrysantha* Lindl. で **chrysantha**（黄金色の花の）という意味を、タデ科 スイバは、*Rumex acetosa* L. で **acetosa**（酸っぱい）という意味を持ちます。その植物を知らなくても、なんとなく様子を伝えてくれる学名はおもしろいものです。

さて、春になると頭に浮かぶ学名が、植物…ではなく昆虫のアカマルハナバチです。学名は *Bombus hypnorum koropokkrus* Sakagami et Ishikawa で、よく見ると「**koropokkr** コロポックル」と書かれています。コロポックルはアイヌ語（コロポックル *korpokkur*）で「フキの下の人」。花から花へと飛び回るアカマルハナバチの様子を表す、かわいらしい名前です。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



わが家の胡蝶蘭が花を咲かせました。前日まで、丸い蕾だったものが、ふと見ると複雑な形の花になっている…当たり前のことなのでしょうが、なんとも不思議な光景です。花という漢字は“くさかんむり”に“化ける”と書きます。まさに！

(追) 嘱託職員のままではありますが、学芸員補の“補”がとれて学芸員となりました。特に何も変わりませんが、よろしくお願いします。(城坂)